

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 25日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100610		
法人名	医療法人社団美生会釧路第一病院		
事業所名	グループホームさくら苑2		
所在地	〒084-0906 北海道釧路市鳥取大通4丁目10番13号 (電話) 0154-55-3080		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	北海道札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年11月26日	評価確定日	平成21年2月25日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 11月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.19人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	15,000~24,000 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,479 円

(4) 利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名	
要介護1	3 名	要介護2	5 名			
要介護3	1 名	要介護4	0 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	85.3 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	釧路第一病院 鳥取8丁目歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、地域に密着したサービスを目指し日々取り組んでおり、地域住民からの理解も広がっている。事業所は、利用者の健康管理に十分な配慮をしているとともに、母体である医療法人との連携も良く、家族が安心して利用者を任せられる環境にある。管理者は、受診状況書をつくり、職員の誰が見ても利用者の状況がすぐわかるように詳細に記入している。事業所と家族との関係も良く、また、利用者、職員は共に明るく、利用者同士が自然に支え合いながら暮らしている。職員は、できることは利用者本人が行うよう近くで見守りをしながら、利用者に沿ったケアを行っているとともに、利用者の筋力低下を防ぐために、散歩、外出を積極的に勧め、また、ふまネットも早くから採り入れている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	ホーム長、管理者をはじめ、職員全員で取り組んでいる。職員は評価の意義を理解しており、結果についても全職員で共有している。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	運営推進会議では、行事報告に終始するのではなく、参加者から質問を受けるなどの意見交換を行っている。また、地域包括支援センター職員からも、アドバイスを得ている。会議の議題として、外部評価も挙げている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問や行事参加は、家族との交流のよい機会にもなっており、その場を利用して、職員は、家族から意見や要望を聴いている。運営推進会議では意見を言いやすいような雰囲気づくりをしている。母体法人の医療機関でも意見・要望を受け付けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩や買い物の際に、地域住民と日常的に挨拶を交わすなど、交流を広めている。また、さくら苑祭りには、地域住民の参加が年々増加するなど、地域住民が多数あるなど、地域に周知されつつある。また、利用者が地域の他事業所の祭りに参加し、喜ばれている。事業所開催の救命救急講習会にも、地域住民の参加があるなど、今後ますます地域との連携や交流が深まることが期待できる事業所である。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域と共に暮らせる場」として、その人らしく暮らし続けることを支える事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念を話し合い確認しながら、実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の役員会に出席したり、清掃事業や盆踊り等に、職員と利用者が共に参加している。さらに、事業所行事のバザーや利用者作品展に、大勢の地域住民が参加するなど、交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は、自己評価及び外部評価の意義を理解しており、職員全員で評価に取り組んでいる。また、評価の結果を更なる向上に繋げる取り組みも行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、事業所の行事報告に終わることなく、家族代表者や地域委員からの質問や疑問に答えたり、地域包括支援センター職員からアドバイスを得ながら、意見交換を行っている。また、そこで得た意見を、サービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長が窓口となり、必要に応じて市の担当者と話し合いを重ねるなど、市との連携を深めながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度たよりを発行し、利用者の暮らしぶりや健康状態等を請求書とともに家族に報告している。家族来訪時にも、利用者の状況を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に、職員は積極的な声かけをし、意見や苦情を聴くよう心掛けている。また、運営推進会議では、意見を言いやすい雰囲気づくりに配慮している。さらに、母体法人の医療機関でも、苦情や相談等を受け入れる体制を整えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や退職は、最小限になるように努めている。やむを得ず異動等がある場合は、職員の配置に考慮するなど、利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は、外部研修に積極的に参加し、受講後の会議で報告を行い、研修内容の共有を図っている。また、職員は、積極的に上級資格を目指して、働きながらトレーニングをしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	釧根グループホーム協議会に加盟しており、同業者とネットワークをつくり、交流会や研修会を行っている。また、相互訪問活動を通じて、質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者本人と家族に事業所を見学してもらったり、職員が自宅を訪問するなど、本人の生活歴を把握するとともに、事業所の雰囲気馴染めるように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理、縫い物、編み物、畑作業など、職員は利用者から教わることも多く、一緒に過ごしながら支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者との関わりを大切にしており、何気ない会話や行動からも、本人の思いや意向を把握するように努めている。また、生活歴や職歴等に配慮し、検討しながら、その人らしい生活を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は、ケア会議で話し合いを重ねるとともに、本人、家族の意見を取り入れながら、介護支援専門員が介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度、介護計画の見直しを行っている。また、利用者の状態変化に応じて、その都度関係者と話し合い、現状に即した新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への送迎、美容院・買い物への付き添い、外食等のほか、利用者の元職場の見学、自宅を訪問して庭の花摘みをするなど、柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人の医療機関や、かかりつけ医への受診支援を行っている。受診状況書をつくり、項目別に詳細な記載をしておき、家族や、他の職員が、利用者の状況をすぐ分かるように支援している。また、定期的に訪問看護も受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期についての方針は、家族や職員と話し合い、全員で情報を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないような声かけをしておき、対応は穏やかである。また、個人情報や記録の取り扱いにも配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの日々の生活リズムに沿って、起床や食事、入浴時間などに配慮している。趣味活動の絵や書、ピアノ、カラオケなど、一人ひとりの希望に沿った支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	意	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者は、職員と一緒に準備や後片付けをしている。また、食事には、利用者の好みをできるだけ採り入れるように配慮している。また、個々のお祝い等の行事には、職員と利用者全員で手作りの料理で祝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が、くつろいで入浴を楽しめるように、時間も希望に沿うなどの配慮をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作業、編み物、ピアノ演奏、絵や書など、利用者の楽しみや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物、散歩、畑作業、ドライブ、カラオケ等、利用者の行きたいところへ出かけるなど、希望に沿った支援をしている。また、利用者は、各自万歩計を持っており、楽しみながら外へ出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解している。状況に応じて施錠せざるを得ないときも、必要最小限にとどめるなど、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害、防災訓練を実施している。救命救急講習会には、地域住民の参加もあり、地域の理解も広がっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状況に応じた献立を作り、栄養士の確認を受けている。日常生活の中で、利用者の栄養バランスを把握しながら、状況に応じて食事量、水分量をデータ管理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所は全体的に、広く清潔な共有空間となっている。広い廊下には、椅子を数ヶ所に設置しており、利用者はそれぞれの場所で過ごしている。また、不快な音もなく、直射日光も入らないように配慮しているとともに、生活感や季節感を採り入れた装飾を施し、居心地よく過ごせるように工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、使い慣れた家具や大切な仏壇等を持ち込んでいる。これらについては、利用者や家族と相談しながら設置するなどの配慮をしており、居心地よく過ごせるように支援している。		

※  は、重点項目。